



## 第2回ブロック会議を開催

2019年5月25日(土)～26日(日)の2日間、名古屋クラウンホテルにおいて2018年度第2回ブロック会議が開催された。今回のブロック会議は、1月19日に開催した「地方協議会議長会議」での議論を受け、それぞれの地方協議会の幹事会の進め方などの運営方法に関する課題の共有、および地方連合会への取り組みに関する課題の共有と、その解決に向けた意見交換の場が必要との判断の基で、昨年度と同様に、全国11地方協議会の三役および地方連合会担当に集合いただき、開催してきたものである。

また、地方連合会への取り組みに向けては、連合本部より講師を招聘し、「連合運動について」講義をいただき、運動の必要性を改めて再認識する場とすることができた。

第2回ブロック会議の内容は、組織運営の基本となる「年間活動計画の進捗状況」、それぞれが抱えている「幹事会の進め方などの運営方法」、そして「地方連合会への取り組み」の課題について報告を受け、連合本部からの講義内容も参考にしながら、「地方協議会活動を活性化させるために」、その課題解決に向けて議論を進めた。

その結果、「各地方協議会の幹事会運営について」は、①開催日程等はそれぞれ工夫して設定、②本部から幹事会で共有いただく情報を整理して発信、③各地協は議事録を作成し幹事会に参加出来ていない組織へ情報の共有を図る、等を確認した。また、「地方連合会の取り組みについて」は、出来る範囲での対応としていくが、優先的な活動としては「政策・制度」「中小対策」「男女平等」には積極的な対応を図れるよう努力していく事を確認した。

2日目の冒頭には、浜野よしふみ参議院議員が急遽来場され、近況報告および来る参議院議員選挙に向けた情勢分析についてお話をいただき、我々も議員の必勝に向けてあらためてエールを送った。

総括として、2日間に亘り、連合本部からの講義も含め十分に意義のある意見交換と情報の共有ができたと感じる。産別本部としては、質・量ともに安定した地方協議会活動ができるよう、今後更なる連携を図っていきたい。



(当日の様態など次ページの写真もご覧ください)





## 第2回ブロック会議時に「連合運動について」学習会を開催



連合本部 内田副事務局長

地方連合会への今後の取り組みに向けて、連合本部より講師を招聘し、「連合運動について」をテーマに、①連合の進路と運動方針、②働く事を軸とする安心社会の実現に向けて、③連合評価委員会報告、④連合ビジョン、⑤社会保障・教育・税制に関する政策構想について、講義をいただいた。

各地方協議会が参画する「地方連合会運動の必要性」を改めて再認識すると共に、連合・印刷労連の運動方針を踏まえ、より地域に密着した取り組みの必要性を再確認した場とすることができた。



# 2018年度 本部青年委員会研修会を開催

「～震災を風化させない～ 被災地の復興状況の視察と北海道の開拓史から学ぶ」リーダー研修を実施

中央書記長 宍戸良太

## 「震災を風化させない」

平成は1989年にはじまり、2019年4月にその幕を閉じた。この30年を振り返ってみると、大きな災害に見舞われ続けたことがわかる。1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災から24年、未曾有の被害をもたらした2011年3月11日の東日本大震災の発生から8年、2016年4月14日以降相次いで発生した熊本地震から3年が経過した。いずれも最大震度7を観測した大地震である。また、30年の間には、過去にも起きていた場所で再び災害が起きていることもわかる。先人たちが辛い経験をしていながら、また被害がうまれてしまった、というのはとても悲しいことである。犠牲になった人たちのために、残された私たちができることはなにか、これから生きる人たちのためにできることはなにか、私たちは真剣に考えていかなければならない。

2018年9月6日に北海道胆振東部地震が発生し、厚真町で震度7を観測。苫東厚真火力発電所が被害をうけたことから、北海道全域で停電（ブラックアウト）が発生したことは記憶に新しい。実は北海道では、この30年間で多くの災害が発生している。1993年1月の釧路沖地震、1993年7月の北海道南西沖地震、1994年10月の北海道東方沖地震、2003年9月の十勝沖地震、そして2018年8月17日から1週間の間で台風7号・9号・11号が上陸し大雨・暴風により甚大な被害をもたらした。



浄水場。タンク(A)の横に建っていた建物(B)が土砂で流された。

「震災を風化させない」取り組みは、ボランティアや視察により、復興状況を把握すると共に、組合員や家族にむけた情報提供を行いながら防災・減災の意識喚起を促し、自ら「備える」ことの大切さを認識する。加えて、被災地での物品購入等、組織全体でできる被災地への復興・再生に向けた取り組みである。これは「助け合い・支え合い」という労働運動の原点であり、「助け合い・支え合い」を実現する中で再認識された「絆」の尊さを貴重な財産としつつ、いま一度、被災地に寄り添い続ける思いを行動で示していくことが重要であり、本年度は北海道胆振東部地震の被災地視察を実施してきた。



厚真川の上流にある「厚真ダム」にて。山合いの茶色の所は表層が崩れた部分。



厚真町といえば「ハスカップ」。その農園です。

## 「北海道の開拓史から学ぶ」

また、リーダー研修として、初日は北海道の開拓史やアイヌ文化を含めた歴史・文化学習を実施してきた。北海道開拓の村・北海道博物館にて、北海道の歴史や文化、自然環境と人との関わりやアイヌ民族の文化、本州から渡ってきた移住者の暮らしなどを学んだ。折しも今年4月19日に、北海道などに居住するアイヌ民族を、法律上初めて「先住民族」と明記し、アイヌ民族の誇りを尊重し、必要な支援策を盛り込んだ新法が参議院本会議で可決・成立した。その意味も含めて、博物館でのアイヌに関わる具体展示物に触れながらの総合的な研修とすることができた。



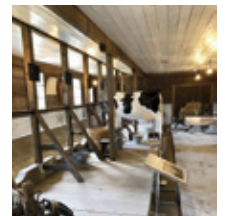
北海道博物館にて。



「北海道開拓の村」を2班で見学研修。



にしん漁で財を成した青山家。



小川家酪農畜舎。

### ◆参加された青年代表者(組織名略称)

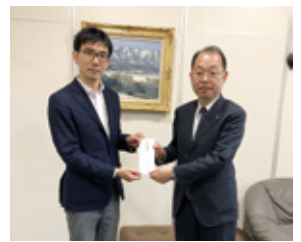
【北海道】堀崎優介さん(野崎)【宮城】佐藤幸治さん(野崎)加藤瑞基さん(フォームズ)【関東北部】初谷明日花さん(フォームズ)富重翔太さん(リーブル)【関東南部】菅野清太郎さん(凸版)織茂杏里さん(凸版)【石川】高岡徹さん(高桑)森優生さん(高桑)【愛知】毛利裕昭さん(竹田)永井大地さん(名鉄局)【京滋】野口大謙さん(大平)浅見卓矢さん(野崎)【大阪】岩崎美美さん(凸版)野本美菜子さん(凸版)【福岡】武智英里子さん(フォームズ)逆瀬川玲奈さん(凸版)【熊本】林田勝也さん(凸版)北川勇治(凸版)  
※北海道地方協議会より、鈴木議長・高野事務局長に同行いただきました。

## 「本部青年委員研修を通じて」

北海道地方協議会議長 鈴木啓之

今回の研修には北海道地協として、企画、立案、運営と携わってきました。昨年発生した「胆振東部地震」の発生後、北海道地協として何かできる事はないかと考え、本部青年研修での視察を含め、この震災を風化させない事が私たちの責務と考えておりました。また、次世代リーダー育成の観点から北海道独自の開拓史を学び、知識の醸成というテーマを元に研修を立案してまいりました。北海道は大変厳しい冬があり独特の厳しさがあります。今回の研修で訪れた「北海道開拓の村」「北海道博物館」では、様々な展示物等から未開の北海道の大地を、冬の厳しい生活を少しでも豊かに生活するため、様々な創意、工夫をしていた事を実感しました。当時の方たちは経済的にも環境的にも大変厳しい状況であったと思います。現在はAIやIoT化が進み豊かな時代にはなりました。しかし、当時の先人たちのように「更に豊かにする」気持ちは私も含め薄れているのかもしれない。労働組合も様々な観点から「生活を豊かに」する活動を行っておりますが、私も労働組合に携わる立場として今後の活動への本質を再確認できました。2018年9月6日に発生した「胆振東部地震」、私自身も二日間ブラックアウト(停電状態)を経験しました。しかし、この視察で目の当たりにした被災は想像以上に甚大なものでした。非常に広範囲に渡る地崩れが建物を流し、尊い命が奪われました。その様な状況が今も散見され心が痛む光景の中、語り部さんからは「多くの方に視察いただき、いつ発生するかわからない地震に対して備え、教訓としてください。」と大変重要なメッセージを授かりました。

主催者側の一人として、関係する皆様にはこの青年研修を北海道で開催出来た事に感謝をお伝えし、授かったメッセージを参加者全員が受け止め、各地協、職場、地域に届けていただく事を切に願います。



2019年5月31日、印刷労連北海道地方協議会の田中幹事より連合北海道の出村会長へ義援金をお渡ししました。この義援金は、中央メーダーの模擬店の売上金全額を拠出したものであり、出村会長からは感謝の意と、今後も震災を風化させない取り組みを続けて欲しいとのお話をいただきました。



## 2018年度最後の「第7回中央執行委員会（拡大）」を開催

2019年6月16日(日)に石川県加賀市に於いて、本年度最後の第7回中央執行委員会を地方協議会議長を含めた拡大開催とし、第2回中央闘争委員会と合わせて実施してきた。

協議事項では、2019年春季生活闘争中間まとめを行い、特に賃上げについては、「印刷労連・賃金政策」に基づく目標水準を考慮した取り組みが行われ、6年連続の賃金引き上げの実現、および100人未満の組織においては前年を上回る回答引き出しが実現できた。また、2018～2019年度運動方針に対する活動の振り返りと、次年度の運動方針策定に向けて議論を進めた。

確認事項では、本部書記の派遣採用、連合連帯活動への取り組み、UNIへの海外派遣等について確認された。

また、第2回中央闘争委員会では、連合2019年春季生活闘争中間まとめ、ならびに第6回回答集計結果、印刷労連各構成組織の6月13日現在の要求・回答集計状況について報告し確認された。

新年度第1回中央執行委員会は7月26日に東京グランドホテルで開催していく。

今回の開催に際しては、石川地方協議会にご協力いただき成功裡に終える事ができた。



— 2019年6月、全労済から「こくみん共済 coop」へ —  
**たすけあいの輪をむすぶ**  
**「こくみん共済 coop」スタート!**

こくみん共済 coopは、  
 「共済」を通じて人と人との「たすけあいの輪」をむすび、  
 「安心のネットワーク」を広げていきます。

こくみん共済

住まい共済 自動車共済 健康共済 総合生活共済 せいの共済  
 マイカー共済 自転車共済 家族生活共済 交通共済 職セキ共済

roussin ろうすんのキャッシュカードなら 便利でおトク  
**コンビニATMの引出し手数料 0円!**  
 お引出し手数料が無料のATM

セブン銀行 ロソン銀行 FamilyMart  
 西イオン銀行 三井住友銀行

さらに 全国のMICS加盟金融機関・信用金庫等でも使えて  
**ATMお引出し手数料を 即時キャッシュバック!**

**働くを支える**  
**暮らしに備える**  
**生活を豊かに**

☆印刷労連  
 ☆こくみん共済 COOP  
 ☆労働金庫

### — 編集後記 —

「行けたら行きます」。気が進まないお誘いを受けた時など、このようにお返事をしてしまうことがあります。残念ながら多くは果たされない約束であった気がします(笑)「一瞬いいですか?」と受けた相談は、込み入った相談になりがちです。「ここだけの話」はみんな知っている話です(これは私の主観です・・・失礼)。豊かすぎる日本語は、世界に例を見ない奥ゆかしさをもっているといわれています。私は教育・広報委員として、これまで多くの皆さんから執筆頂いた文章をお預かりして編集に携わってまいりましたが、それぞれの皆様の個性溢れる表現は、とても興味深く、また今更なが

ら大変勉強をさせて頂いたと思っております。一つの活動、事象をどのように伝えるか?これは人それぞれであり、ある意味伝え方は無限大と言えます。当機関誌「NETWORK」については印刷労連の運動を、そこに参加できなかった皆様にもお伝えするための「見える化ツール」であると信じて疑いません。今後も様々な角度から、多くの皆様に執筆を頂き、産別運動がより身近に、手に届くものになるような機関誌「NETWORK」になればと存じます。皆さんも是非期待してください!

教育・広報委員会 高橋 康